

スクールカウンセラー

中谷しいやのつぶやき



2025年夏休み号

石川県立小松高等学校教育相談室

「夢」や「人生設計」について

よく、「夢」について学校の先生方や教育関係者は話題になさいます。「夢を持って」とか、「夢に向かって進め、努力せよ」とかの言葉も聞いたことがあるように思います。



「夢を持つこと」があたかも素晴らしいように感じられるのですが、では「夢を持ってない」高校生はいけないのでしょうか？ 実は、結構たくさんの生徒さんから「夢なんて持てない」「持とうと思わない」と聴くのです。毎日の生活の中でそれどころではなかったり、悩みの中にあってその悩みに押しつぶされそうになっていたり、部活や勉強で夢を持つことが二の次三の次になっていたり、「夢を持ってない訳」は様々ですが、そんな状況に置かれている生徒さんがいるのです。

「将来設計はどうするんだ?」「人生の計画はどうなっているんだ?」と云いたくなる方もおられる事でしょう。ですけれども、お父さんお母さんは将来設計や人生の計画は立てて来られたのでしょうか？ そして計画通りに進みましたか？

正直に白状しますが、この文章を書いている「スクールカウンセラーの中谷しいや」は、中学生の時に考えていた事、高校生の時に考えていた事、大学に入る時に考えていた事と、自分の仕事、自分の人生は大きく異なっています。二転三転どころか、七転八倒の人生と云えば大袈裟ですが、その度その度にあらためて考えて「進路変更」をしてきました。

それでも今は思うのです。「どんなに不真面目でいい加減な動機で職業を選んだとしても、或る時から本気になって精進して、ひとかどの人間になった」人が、実は、かなりの数でおられるのですから、四角四面にきっちり考えなくてもいいのではないかと。

この上記とは異なりますが、筆者が在籍していた大学で臨床心理学やカウンセリングを教えておられた先生や、論文の口頭試問で実を射た質問をなさった精神科の医師の先生も、「屈折の多い人生を送って来た」とご自身で仰っておられました。iPS細胞の研究でノーベル賞を受賞された山中先生も、最初は外科の臨床医だったと聞いたことがあります。その頃は足手まといで「じゃまなか」と呼ばれていた、とも聞いています。

さて、ご自分のお子さんが今の時点で「夢を持っていない」可能性は大いにあると思います。ですが、その事をとがめる必要はないと思うのです。また夢が壊れて、進路変更を余儀なくされる事もあるでしょう。それでも必死で努力すれば、それなりの結果はついてくると思うのです。

夏休みの子どもたちとじっくりお話しなされる機会が増えると思います。
どうぞ自動車のハンドルの遊びと同様に、
ゆとりのあるアドバイスをなさっていただきたいと思います。

